

第28期

Business Report

株主通信 | 2020.1.1 ▶ 2020.12.31

Contents

01 トップインタビュー 04 沿革 05 Close-Up 07 セグメント別概況

09 連結決算情報 10 会社概要



“人が生きるカタチ”の創造

当社は、「事業を通じて、世界の人と文化に貢献する」という基本理念のもと、人々に生活を営むための環境と多様な働く場所を提供し「人が生きるカタチ」を創造するという社会的使命に取り組んでいます

変化に強い組織と 心で伝える優しい企業集団を目指してまいります。

複数事業のポートフォリオの強みを活かし、大きな社会変化を好機に変えようとチャレンジするワールドホールディングス。
“人が生きるカタチ”の創造を通じ、安定的かつ持続的な成長を目指す取り組みについて、代表取締役会長兼社長の伊井田
栄吉に聞きました。

2020年12月期： 事業活動の概況

コロナ禍という未曾有の危機によりマクロ環境が大幅に悪化しましたが、戦略的に構築してきた複数業種にわたる事業ポートフォリオの強みが奏功し、連結業績は増収増益を確保しました。

基幹事業である人材・教育ビジネスを中心に、2020年12月期(当期)の事業活動を振り返りたいと思います。リーマンショック後の約10年にわたり、世界的な金融緩和がもたらしたバブル的な経済状況の長期化により、人材サービス市場も過剰な成長期にあったと考えております。

そのような事業環境分析のもと、当社はそのバブル的な状況がもたらす市場成長に依存するのではなく、安定的かつ持続的な成長を実現するための成長戦略を策定し、お客様企業ニーズを包括的にカバーするための仕組みづくりや次世代の成長を担う業種の絞りこみ、働く人々のスキルアップ・シフトアップに向けた取り組みなど

を実践してまいりました。

中期的視点に立ったこれら取り組みの結果、コロナ禍という未曾有の危機に直面しても、大きなひずみは発生せず、計画に沿った成長が実現できたと思っております。

過去数年の人材サービス市場のバブル的な成長に乗って急成長してきた大手競合他社との比較では、当社の成長速度は緩やかであったかもしれませんが、この背景には、今回のような事態に陥っても成長を維持できる強い企業を目指し、無理な膨張を避け必要な事業基盤への投資を着実に進めるという当社の成長に対する考え方があります。当期は、このような成長戦略のもと、当社グループが一丸となって、様々な人材が活躍できる環境の創出、新たな“人が生きるカタチ”の創造に尽力してきた成果が少なからず示せたのではないかと考えております。

人材・教育ビジネスの概況

市場が好調に推移した領域の一つに、ファクトリー事業における5G関連があります。従来より当社は、「ものづくり領域」において川上工程から川下工程までを幅広く

代表取締役会長兼社長

伊井田 栄吉

くカバーすることで、事業セグメント間の連携を強化し、領域の裾野拡大を図ってまいりました。これにより、お客様ニーズへの対応力を強化する一方、働く人々にとっての採用の門戸を広げ、スキルアップやシフトアップの可能性拡大を推進してまいりました。

5G関連を中心とした半導体・機械関連については、注力分野の一つと位置付け、営業活動を戦略的に進めてきた結果、大口受注などの事業拡大につながりました。当下半期は次なる流れを見込んで、採用の強化や事業所の立ち上げなどの先行投資を行いました。

巣ごもり消費が追い風となっている物流関連についても、新拠点の立ち上げを行うなど来期以降の大きな成長を見込み先行投資を行いました。この事業は時代の大きな流れの中でのeコマース市場の拡大を見込み、2012年に市場へ本格参入いたしました。それも、人材派遣の形態ではなく、クライアントの物流センター内の業務を一括して請負う3PL (Third Party Logistics) という形式で、当時、当社にとっては全く新しい挑戦となりましたが、その後も、数千人規模を必要とする採用力の強化や、より効率的な業務を可能とするシステム化、管理者育成などを継続してまいりました。当期、新たな拠点の立ち上げをスムーズに行えたのも、これまでのノウハウの積み上げが奏功したと考えております。

この他、テクノ事業、R&D事業、セールス&マーケティング事業においても、成長市場のさらなる開拓や人材育成による単価アップなどを推進する一方で、次世代に向けた投資の手は緩めておりません。これらの取り組みの結果、当期末の人材・教育ビジネスの在籍数は前期末比5,898名増の27,543名となり、過去最高となりました。

不動産ビジネスの概況

世界的な金融緩和政策の継続で金余り状況が続いているため、「不動産バブル」が想定以上に長引いています。当期においてもその状況が続いているため、仕入れに関しては慎重に進めつつ、中期的な市況見通しや収益計画に基づき、タイムリーな売却を実践しております。

当社はリーマンショック後の2010年、淘汰が進んでいた不動産業界に好機があると見て、不動産ビジネスに参入しました。不動産市況の回復局面に成長を加速させ、マンション開発や事業用地開発を行うデベロップメント関連事業、不動産再生を手掛けるリノベーション関連事業など、現物不動産を扱う事業を展開し、その事業基盤を構築してまいりました。

市況がピーク期に入った2017年以降は、市況を慎重に見極めながら開発物件の売却等を行ってまいりました。短期的には収益計上に期ズレの発生などがありましたが、2019年を売却のピークとしてほぼ計画通りに事

業は進捗していると判断しております。

一方、想定以上に市況が高止まりし続けるこの局面において、現物不動産事業を無理に拡大しないとの判断は変えず、今後の市況軟化に備え、アセットマネジメント事業や債権回収事業など、不動産金融関連事業に係る事業基盤の構築を適宜進めてまいりました。その一環で、今後の投資資金として、昨年末には総額200億円のコミットメントラインを設定しました。

2021年12月期以降の取り組み

景況感の先行きがある程度見える局面になれば、当社グループのさらなる成長を期待できると考えており、過去数年にわたり、そのための先行投資をしっかりと行ってきたと自負しております。2021年は、人材・教育ビジネスが引き続き当社グループの業績を牽引する一方、バブルの状況のもと、慎重に動いている不動産事業については、

2020年12月期 連結業績概要

		2019年12月期		2020年12月期			2020年12月期(予算)		
		実績(百万円)	利益率(%)	実績(百万円)	利益率(%)	前期比(%)	予算(百万円)	利益率(%)	対予算(百万円)
人材・教育ビジネス	売上高	77,774		83,142		+6.9	82,620		+521
	セグメント利益	5,179	6.7	5,515	6.6	+6.5	5,451	6.6	+63
不動産ビジネス	売上高	42,082		48,081		+14.3	47,713		+368
	セグメント利益	1,460	3.5	3,550	7.4	+143.1	3,369	7.1	+180
情報通信ビジネス	売上高	12,344		9,133		△26.0	9,222		△89
	セグメント利益	10	0.1	240	2.6	+2,097.3	237	2.6	+3
その他	売上高	4,118		3,214		△22.0	3,002		+212
	セグメント利益	132	3.2	△200	—	—	△339	—	+139
合計	売上高	136,319		143,571		+5.3	142,558		+1,012
	消去又は全社	△2,052		△2,854		—	△2,711		△142
	営業利益	4,730	3.5	6,251	4.4	+32.1	6,006	4.2	+244

成長の一時的な鈍化を想定しております。しかし、コロナ禍による大幅な財政出動の流れを見ましても、市況の反転タイミングは徐々に近づいていると想定されますので、コミットメントラインの設定を含め、変化のタイミングで機動的に動けるよう、投資準備は着実に進めています。

これまでの当社は、自ら挑戦できることについては自力でノウハウを積み上げてまいりました。例えば物流関連事業につきましても、ファクトリー事業で培ったノウハウをもとに、自らの力で横展開した経緯がございます。次世代を見据えたM&A等の事業投資に関しましては、事業の膨張を目的とした事業投資は今後も想定しておりませんが、既存事業の成長戦略上、不可欠な事業やノウハウを取り込むことを第一目的とした事業投資は積極的に行っていきたいと考えています。

複数事業のポートフォリオの強みを活かし、より多くの“人が生きるカタチ”を創造するため、事業成長のためのデザインを策定し、業種分散、地域分散、ビジネスモデ

ルの融合を図り、バランスのとれた安定経営基盤の構築を推進したいと考えております。

ステークホルダーの皆様へ

今後数年はまだ混沌とした経済情勢が続く可能性があります。当社グループにとって、この局面は新たなチャンスと捉えています。

時代が大きく変化しつつある現在、当社グループは変化に柔軟に対応し、さらに強い企業集団となる必要があります。その実現には、ただ強いだけでなく、優しい心をもって「伝える」ことが重要です。多種多様な人々に対し「和」の心をもって伝え、様々なステークホルダーの皆様から信頼を得ることこそ、当社グループの持続的成長の源泉になると考えております。

そして、当社グループの社会的使命である“人が生きるカタチ”を創造し、多くの人々が生き活きと活躍し、豊かな

2021年12月期 連結業績予想

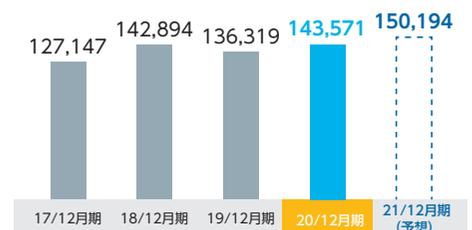
	2020年12月期		2021年12月期		
	実績 (百万円)	利益率 (%)	見通し (百万円)	利益率 (%)	前期比 (%)
人材・教育 ビジネス	売上高	83,142	96,825		+16.5
	セグメント利益	5,515	6,210	6.4	+12.6
不動産 ビジネス	売上高	48,081	40,363		△16.1
	セグメント利益	3,550	2,167	5.4	△38.9
情報通信 ビジネス	売上高	9,133	8,769		△4.0
	セグメント利益	240	190	2.2	△20.8
その他	売上高	3,214	4,236		+31.8
	セグメント利益	△200	170	4.0	—
合 計	売上高	143,571	150,194		+4.6
	消去又は全社	△2,854	△2,274		—
	営業利益	6,251	6,465	4.3	+3.4

心で生活できる環境を創っていきたいと考えております。大きな変化の時代にあっても、サステナブル経営の考え方をもって、持続的成長、新たな価値創造を目指す当社グループに変わらぬご支援をお願い申し上げます。

決算サマリー

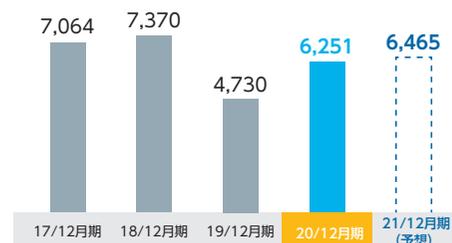
売上高

143,571 百万円 | 前期比 5.3% ↑



営業利益

6,251 百万円 | 前期比 32.1% ↑



経常利益

6,786 百万円 | 前期比 41.2% ↑



親会社株主に帰属する当期純利益

5,913 百万円 | 前期比 100.0% ↑



グループミッション

“人が生きるカタチ”の創造をもとに、 複数ビジネスの展開による サステナビリティ経営を実践しています

(株)ワールドホールディングスは、純粋持株会社であり主な関係会社36社で構成されています。当社は、事業を永続的に存続させるためには、一つの柱だけでなく複数の柱による安定経営・バランス経営が最も重要であるという考えのもと、これまで「人材・教育ビジネス」「不動産ビジネス」「情報通信ビジネス」を中心に複数の事業を展開してまいりました。今後も当社は“人が生きるカタチ”の創造を進化させ、より多くの人々が生き生きと活躍できるステージを提供し続けるべく、どのような経済環境・社会環境の変化にも左右されない事業基盤を追求し、さらなる安定拡大と持続的成長を目指します。



人材・教育ビジネス

研究開発、設計開発、製造、物流、販売、さらにはアフターサービスなど、“ものづくり分野”を中心とした幅広い領域において、業務請負・人材派遣事業を展開



ファクトリー事業



テクノ事業



R&D事業



セールス&マーケティング事業



不動産ビジネス

デベロップメント関連、リノベーション関連の他、不動産金融事業を展開



情報通信ビジネス

モバイルショップ運営を中心に、法人向けソリューションやテレマーケティング事業を展開

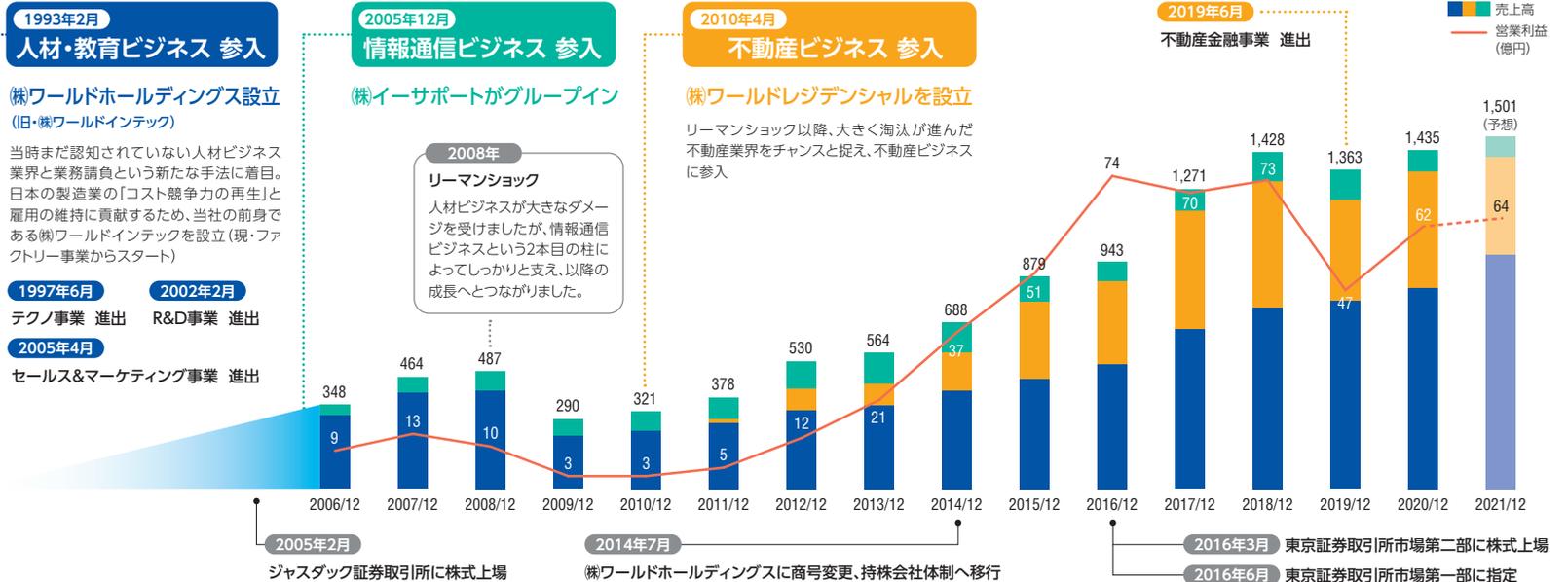


その他事業

農業公園の施設運営管理の他、パソコンスクールの運営やWEB制作等を展開

主なあゆみ

安定経営・バランス経営の原点は、当社代表取締役会長兼社長の伊井田栄吉が1981年に総合不動産会社 みくに産業(株)(現・(株)ミクニ)を創業した時代まで遡ります。不動産バブルの崩壊により、多くの同業他社が疲弊する姿を目の当たりにしたことで複数の柱による安定経営・バランス経営の重要性を認識。その後の複数ビジネスへの参入につながっていきます。



時流の変化を見定め、市場ニーズを的確に捉えた成長戦略を推進します。

「複数事業のポートフォリオ」という強みを活かし、業種分散・地域分散、そしてフロービジネス・ストックビジネスの融合を図り、経済の変化への対応力を重視したビジネスモデルで、バランスのとれた安定経営基盤を構築してまいります。



人材・教育ビジネス

戦略

1

包括受注の拡大

当社には元々、ものづくり分野の川上から川下までを幅広くカバーしているという強みがありますが、今後はさらにシームレスなトータルサポート、いわゆる「点ではなく面でのサポート」を展開していくことで、業界での独自ポジションを確立してまいります。

既に各事業間の連携は進んでおり、「ものづくり領域」内だけにとどまらず、「サービス領域」までもを横断したシームレスなトータルサポートで顧客ニーズに的確にお応えし、幅広い領域をカバーしている強みを活かした受注が着実に拡大しています。

ものづくりを中心とした幅広い領域をシームレスにカバー



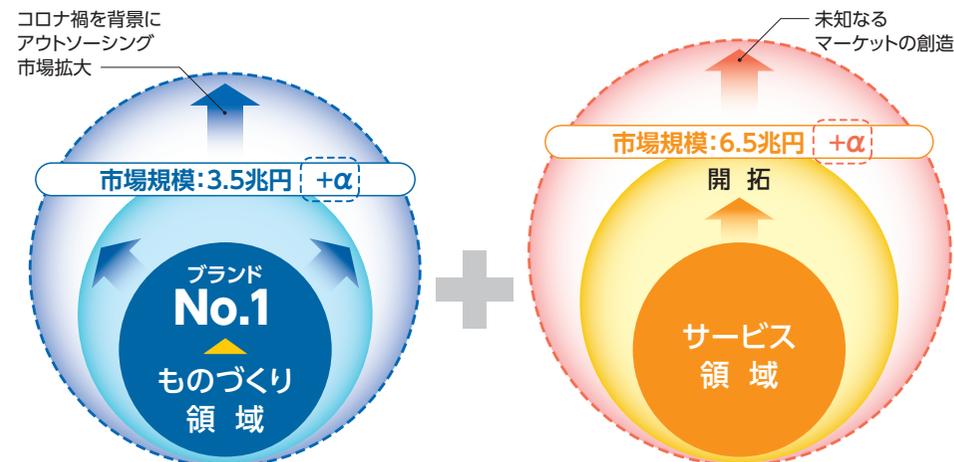
戦略

2

「ものづくり領域」でブランドNo.1へ&「サービス領域」での事業拡大

基軸の「ものづくり領域」の市場規模は、コロナ禍においてさらなる市場拡大が見込まれています。今後とも、既存領域の裾野を広げつつ、さらなる質の向上を図り、「ものづくり領域」でのブランドNo.1を目指してまいります。

一方、市場規模が非常に大きいのが「サービス領域」で、様々な事業チャンスが眠っていると見込んでいます。既存の軽作業、大型スーパー、コールセンターを軸に裾野を広げ、さらなる成長を図ります。



JV・コンソーシアムモデル等を駆使した 新たな人材ビジネス市場の創出

当社は、「アウトソーシング」の進化系である「コ・ソーシング」という概念を設立当初から掲げてきました。この思想をもとに、よりクライアントに近い位置でクライアントとともに課題解決に臨み、強みであるコンソーシアムモデルやJVなどを駆使しながら、人材業界での独自の立ち位置を確立し、安定拡大につなげてまいります。



不動産ビジネス

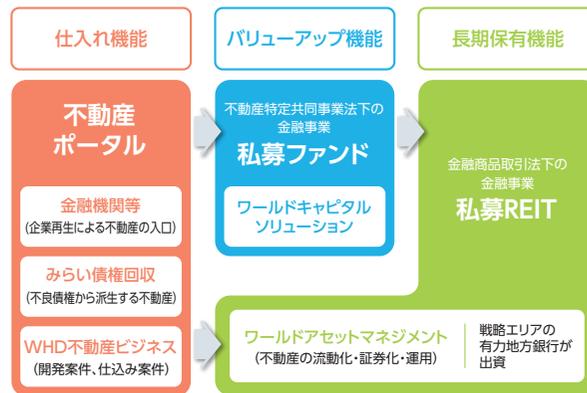
既存領域にて適正規模で利益確保を図り、 不動産金融により成長を目指す

「不動産バブル」が継続する現在、より慎重な事業展開をしています。デベロップメントやリノベーションといった「現物不動産」事業は、市況を的確に見極めながら、今後も無理をせず『適正規模』にて利益確保を図ってまいります。そして、市場が反転するタイミングで機動的に動けるよう、コミットメントラインで資金確保をしつつ、現在は不動産金融事業の基盤づくりに注力しています。

収益物件の長期保有化を図り、 さらなる安定経営体制を実現

現物不動産というフロービジネスに加え、不動産の流動化・証券化という「長期保有」機能を追加することで、ストックビジネス化を推進し、さらなる安定経営につなげていきます。

現在、「みらい債権回収」というサービスで不動産ポータルの一つを作り、不動産特定共同事業法下の金融事業、そして金融商品取引法下のビジネスとしてアセットマネジメント機能を有する「ワールドアセットマネジメント」を立ち上げ、着実に金融関連の基盤構築を進めています。



コロナ禍でも「密」にならない 施設運営で憩いの場の提供を

自然あふれる屋外テーマパーク施設を4カ所直営している他、指定管理や業務受託で計12カ所の施設運営を行っています。「未来を担う子供たちに、自然あふれる環境で、心も身体も健康に育ってほしい」との想いのもと、地域に根差した幅広い雇用創出と地域活性化により地方創生を目指しています。

2020年12月期、コロナ禍の影響を最も受けたのが農業公園事業です。緊急事態宣言の発令などがあり、最大の繁忙期である春に開園できず大きな影響を受けましたが、第4四半期以降は的確な誘引施策などが奏功し、入園者数が前年を大きく上回るまで回復しました。

農業公園の魅力は、「密」になりにくい豊かな自然空間で食事を楽しんだり、動物と触れ合ったり、走り回ったりできることです。今後はさらに、「密」になりにくい屋外施設であるという強みを活かし、地域に必要な憩いの施設としてのプレゼンス向上に努め、社会に貢献してまいります。





人材・教育ビジネス

事業紹介

“ものづくり”は、研究開発から始まり、設計開発、製造工程を通して製品が完成し、その後、物流、販売されて購入者のもとに届き、修理などのアフターサービスまでを含め一連の流れが完結します。当社は業務請負・人材派遣を通して、この“ものづくり分野”における上流工程から下流工程までワンストップでサービスを展開。企業の幅広いニーズに応えるとともに、働く人には、多くのスキルアップ・キャリアアップの可能性を提供しています。

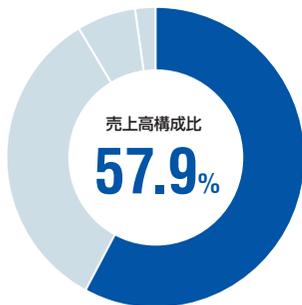


売上高

83,142 百万円 前期比 6.9% **UP**

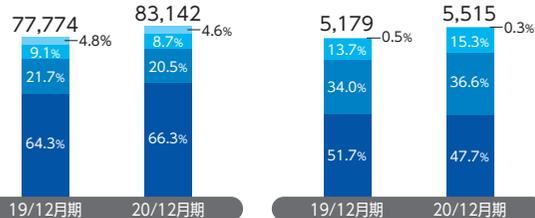
セグメント利益

5,515 百万円 前期比 6.5% **UP**



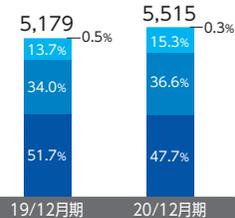
売上高

■ファクトリー ■テクノ ■R&D
■セールス&マーケティング



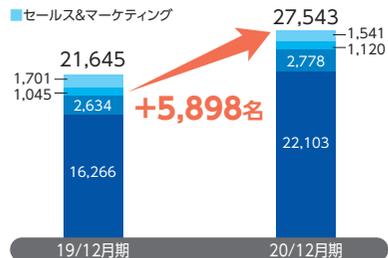
セグメント利益

■ファクトリー ■テクノ ■R&D
■セールス&マーケティング



在籍数(3カ月平均)の推移 (名)

■ファクトリー ■テクノ ■R&D
■セールス&マーケティング



■ 主にファクトリー事業が第4四半期で大きく伸長し、2020年度末で過去最高の在籍数を達成しました。

◎物流関連での新拠点開拓等により在籍数が大幅に増加

◎加えて、5G関連が好調で半導体・機械関連も増加

2020年12月期概況



ファクトリー事業

- コロナ禍の影響により新規取引案件が当初計画よりも減少し、売上利益ともに伸び悩みも5G関連及び物流関連等が好調で増収減益となりました。
- 5G関連を中心とした半導体・機械関連の拡大基調により、採用強化や事業所立ち上げ等の先行投資を行いました。
- 物流分野における新拠点開拓のため、人材育成等の先行投資を実施しました。



テクノ事業

- コロナ禍で当初計画よりも案件が減少したことにより、一時的に稼働率が低下しコスト増となりましたが、人材育成の効果がチャージアップへとつながり増収増益となりました。
- 経験者採用に注力し、既存社員を含めたさらなるスキルアップ・シフトアップを目的とした新たな研修体制の構築など、先を見据えた準備を推し進めました。



R&D事業

- コロナ禍によりCRO部門で案件が減少傾向にあるものの、研究者派遣部門は好調で増収増益となりました。
- 研究者派遣部門は緻密なマーケティングが奏功し案件が増加傾向のため、採用強化等の先行投資を実施しました。



セールス&マーケティング事業

- これまでの構造改革が奏功し、軽作業・大型スーパー・コールセンター等が順調に推移しました。
- 一方で、アパレル関連の案件が減少したことと、コロナ禍によるツーリズム業界への影響が大きかったこと等により減益となりました。



不動産ビジネス

事業紹介

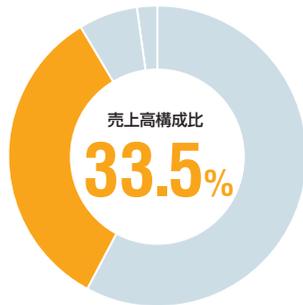
デベロップメント関連、リノベーション関連、ユニットハウス関連などの現物不動産の他、新たな分野として不動産金融にも注力しており、総合不動産業として幅広い領域で事業を展開しています。

売上高

48,081 百万円 前期比 14.3% ↑

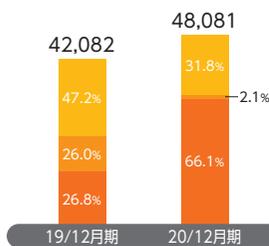
セグメント利益

3,550 百万円 前期比 143.1% ↑

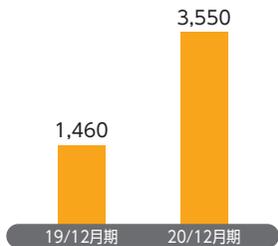


売上高

■デベロップメント関連 ■戸建 ■リノベーション関連他



セグメント利益



2020年12月期概況

コロナ禍によりリノベーション関連での引渡し戸数の減少等があったものの、主力のデベロップメント関連で事業用地等の引渡しが概ね計画通りに進み、前期比で増収増益となりました。一方で、仕入れに関しては慎重な姿勢を維持する中、不動産金融関連ビジネスの体制構築を進めるとともに、次期以降の市場の反転に備え、コミットメントライン等を設定し資金準備を行いました。



情報通信ビジネス

事業紹介

モバイルショップ運営を中心に、法人向けソリューションやテレマーケティングを行っており、モバイルショップでは、SoftBankショップやauショップ等、地域に密着した店舗展開をしています。

売上高

9,133 百万円 前期比 26.0% ↓

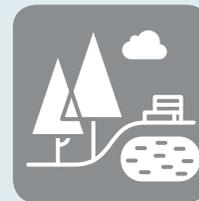
セグメント利益

240 百万円 前期比 2,097.3% ↑

売上高構成比
6.4%

2020年12月期概況

コロナ禍によりモバイルショップ運営及び法人向けソリューション関連で稼働制限がありました。また、店舗の統廃合により売上高は減少しましたが、前期までの構造改革(組織・店舗整備、接遇力・知識力向上のための人材育成等)が奏功し、大幅に増益となりました。



その他事業

事業紹介

全国で12カ所の“自然と人と社会の調和”をテーマにした農業公園施設の運営管理の他、パソコン教室の運営やWEB制作等を行っています。

売上高

3,214 百万円 前期比 22.0% ↓

セグメント利益

△ 200 百万円 前期 132 百万円

売上高構成比
2.2%

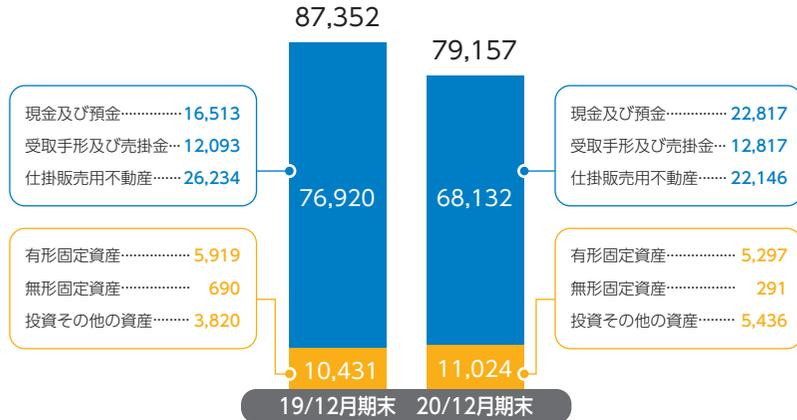
2020年12月期概況

農業公園関連は、コロナ禍の影響で最繁忙期の4~5月に各自治体から休業要請を受け、また外出自粛要請により大きな痛手を被りました。現在は、自然を主とした屋外施設の強みを発揮し、第4四半期以降は単月で前年の入園者数を大幅に上回るなど順調に回復しています。

連結貸借対照表 (百万円)

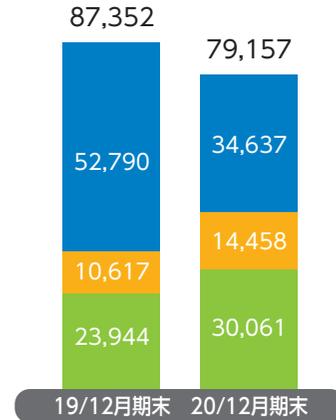
資産の部

■ 流動資産 ■ 固定資産

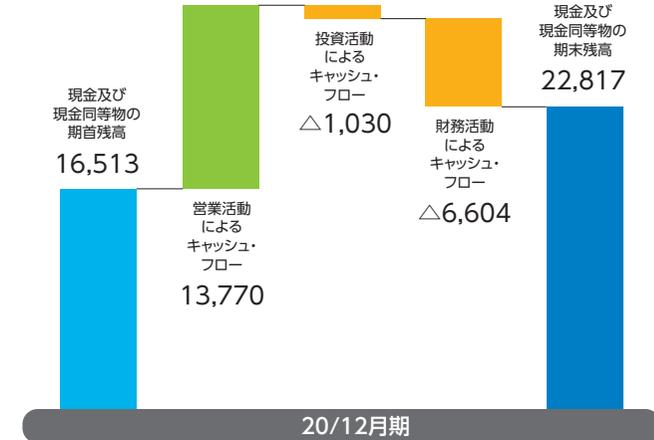


負債・純資産の部

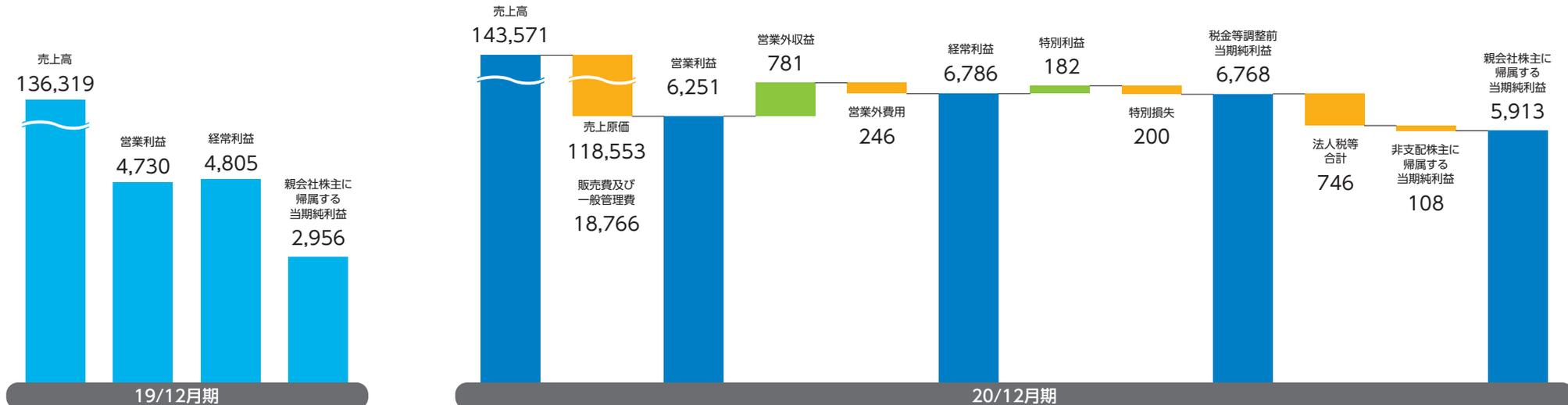
■ 流動負債 ■ 固定負債 ■ 純資産



連結キャッシュ・フロー (百万円)



連結損益計算書 (百万円)



会社概要

(2020年12月末現在)

社名 株式会社ワールドホールディングス

設立 1993年2月12日

資本金 1,244百万円

代表者 代表取締役会長兼社長 伊井田 栄吉

従業員数 22,717名(連結)

【福岡本社】

〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル6F
TEL. 092(474)0555 FAX. 092(474)0777

【北九州本社】

住所 〒803-0814 福岡県北九州市小倉北区大手町11-2
TEL. 093(581)0540 FAX. 093(581)0542

【東京本部】

〒105-0021 東京都港区東新橋2-14-1 NBFコモディオ汐留4F
TEL. 03(3433)6005 FAX. 03(3433)6003事業内容 持株会社・グループ全体の経営方針策定及び経営管理等
グループ全体の事業(人材・教育ビジネス、不動産ビジネス、
情報通信ビジネス、その他事業)

役員

代表取締役会長兼社長 伊井田 栄吉

取締役 岩崎 亨

取締役 山田 秀典

取締役 中野 繁

取締役 本多 信二

取締役 湯川 均

取締役 菅野 利彦

取締役 三舛 善彦

取締役 高井 裕二

取締役 塩見 政明

取締役(独立社外) 貫 正義

取締役(独立社外) 五十嵐 伸吾

取締役(社外) 山崎 英樹

監査役(常勤) 山村 和幸

監査役(社外) 古賀 光雄

監査役(社外) 加藤 哲夫

主な関係会社36社 (連結子会社32社・非連結子会社4社)

(2020年12月末現在)

人材・教育ビジネス

人と仕事をつなぐ
～新しい“働く”カタチ～

ワールドインテック

ワールドスタッフインク

ワールドコンストラクション

ワールドネクスト

DOT ワールド

JWソリューション

TOHOWORLD

台湾英特科

WORLD INTEC AMERICA

EngmaIntec

九州地理情報株式会社

NIKKIEN
TECHNO CO., LTD.

SAINS



情報通信ビジネス

ITで人と人をつなぐ
～新しい“コミュニケーション”のカタチ～

E-SUPPORT

NETWORK SOLUTIONS

ベストITビジネス

その他事業

株式会社 クラウドイット

Advan
株式会社アドバン

不動産ビジネス

人と住まいをつなぐ
～新しい“まちづくり”のカタチ～

ワールドレジデンシャル

ワールドアイシティ

ワールドウィステリアホームズ

ニチモリアルエステート

ゴソパックス

WORLD DEVELOPMENT INDONESIA

MIKUNI

ワールドミクニ

エムズワールド

オオマチワールド

金融関連

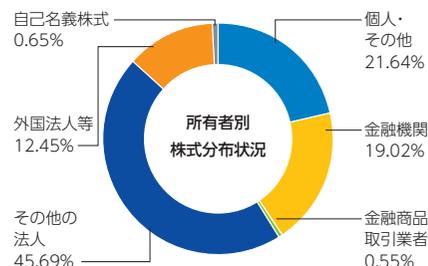
ワールドアセットマネジメント

みらい債権回収

株式の状況

(2020年12月末現在)

発行可能株式総数 54,000,000株
 発行済株式の総数 17,566,900株
 株主数 4,386名



大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
みらい総研株式会社	7,965,000	45.64%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,190,400	6.82%
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS 常任代理人 香港上海銀行東京支店	810,000	4.64%
株式会社北九州銀行 常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社	709,200	4.06%
安部 南鎬	500,000	2.86%
伊井田 栄吉	496,500	2.84%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	411,000	2.35%
株式会社西日本シティ銀行	300,000	1.71%
株式会社三菱UFJ銀行	180,000	1.03%
JP MORGAN CHASE BANK 385781 常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部	121,453	0.69%

※持株比率は自己株式(113,477株)を控除して計算しております。

配当金について

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針としており、配当については、連結配当性向30%を目安として、安定的かつ継続的な配当成長を目指しております。



株主メモ

事業年度 毎年1月1日～12月31日

定時株主総会 毎年3月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1

同連絡先 お問い合わせ先 0120-232-711 (通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法 電子公告により、当社ホームページ(https://world-hd.co.jp/)に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

ホームページのご案内

当社ホームページ内の「IR投資家情報」では、経営者からのメッセージ、新・中期経営計画2021の概要、IR資料室、財務データ、さらには最新のニュースなどがご覧いただけます。

トップページ



<https://world-hd.co.jp/>

IR投資家情報



<https://world-hd.co.jp/ir/>